



図 23 池田遙邨 素描「東京吉原遊廓跡」



図 24 池田遙邨 素描「東京新吉原」



図 26 池田遙邨 素描「東京新吉原遊廓」



図 25 池田遙邨 素描「東京浅草千束町附近罹災民小屋」



図 27 池田遙邨 素描「避難者 東京新大久保駅にて」

図 23～27 池田遙邨素描（京都国立近代美術館蔵）

る。これらの場所は絵葉書写真でも広く知られた場所であったことはこれまでの作品群からも察せられることである。これらの震災スケッチを東京市から依頼されて出品したとも述べている。

その翌年（1924 年—引用者注記）東京市主催で大震災記念物展示会がひらかれたのへ、私にも依頼状がきて写生二十枚ばかりを出陳したが、その年の秋の帝展に六曲一隻の大画面へ月夜の震災跡風景を出品し、見事に落選したのを岡山の天満屋百貨店で私の個展へ出品したところ「この画だけはたたんで置いてくれないと恐しくて巡回できない——」と夜警人が訴えた。この作は

一生の想出の記念として今も私蔵している。

この「災禍の跡」はスケッチをした翌年の秋の帝展に出品して落選したが、この作品に懸けた遙邨の画家としての苦悩は、前田氏が論文で指摘されたように「洋画の写実性に飽き足らなくなった」試行錯誤の跡が「画稿」6点に十分伺うことができる。ムンクの影響そのままの「震災の跡」も描かれている（口絵5参照）。前田氏は「遙邨の震災の絵は、写生から始まってイメージの中で再構成されることによって、より強烈に鑑賞者に自然災害の恐ろしさ悲惨さを訴える力を持った⁽⁹⁾」と指摘されている。

わたしにとって興味深いのは、「画稿3」の右と左の両側に完成作ではみられない西洋風の怒れる神のような像が2体描かれていることである（口絵7参照）。まさに、人知を超えた大厄災は神の怒りとしてしかいいあらわしようがないとして、萱原白洞が「東都大震災過眼録」の最初に描く不動明王に託したものと共通するものがある。震災をどう受けとめるかは画家たちにとっても大きな問題であったのである。

さて、ここまでさまざまな震災絵画を見てきたが、画題としては震災を象徴するような有名な建物群の倒壊のありさまと避難民のふたつに絞られるといっていよう。販売を目的として画家たちに依頼して描かれた画題は、一般的に知れ渡ったいわば「震災名所」が多いといえる。また、避難民が描かれるにしてもバラックでの生活を対象としたものであり、その意味では震災の情報を伝える目的を併せ持つ。これらの一群の震災画は制作、発売時期も早い。これに対して、いわば人のために描くのではなく、自己の見聞を内省化させ描かれるものにはそれ相応の時間が掛けられなくてはならないから、震災発生からの時間的隔たりも大きい。そして、これらの絵画は結局のところ、集団であれ、個であれ、人に収斂する。「災禍の跡」の400点のスケッチには人物が描かれていることは極めて稀で、ほとんどは荒野と化した震災の廃墟がさまざまな角度から描かれているが、結実した完成作では4人の人物が低く引かれた地平線に点在する廃墟を背景に屹立するかのごとく描かれている。スケッチと完成作との間の質的な差は大きいと考える。そこには自然災害によってもっとも打撃を受けるのは人であるというメッセージが込められているかのようなのである。

さて、最後に大衆へ直接呼びかけることを意図した震災漫画の作品群を紹介しておく。先にみた『関東大震災画帖』の姉妹編ともいうべきものとして『日本漫画会大震災画集』（金尾文淵堂、1923年11月）がある。これは『関東大震災画帖』に日比谷公園所見として帝国ホテルの外国人を表現派タッチで描いた水島爾保布が巻頭言を書いている。それによれば、日本漫画会（1923年設立）同人が地震後いくらか経たない時に明治神宮外苑の芝原に集まって協議、震災漫画展覧会を協議したことから始まったという。変災という試練に遭遇して当面したことを描写して発表するのは書画、漫画家の責任だとしている。10日後には90点の作品が持ち寄られ、10月10日前後に開催の予定だったが、11月半ばになって大阪三越呉服店で開催に漕ぎ着けた。また、東京を焼け出され大阪に仮出版部を設けていた文淵堂が展覧会の画集の出版を申し込んできたという出版経緯が述べられている。印刷所は『関東大震災画帖』と同じく、京都の便利堂である。

ここに出品している漫画会同人は水島のほか、池部鈞（国民新聞社漫画記者）、池田永治（1889～1950）、服部亮秀（1887～1955）、小川治平（1887～1925）、細木原青起（1885～1958）、前川千帆

(1888～1960), 在田稗 (1890～?), 宮尾重雄 (1902～1982), 下川凹天, 宍戸左行 (1888～1969), 森嶋直三, 森火山であるが, このうち, 服部は朝日新聞社, 細木原は「主婦之友」の挿絵画家, 前川は読売新聞社, 宮尾は中央新聞社, 水島は大阪朝日新聞社, 下川は東京毎夕新聞社など, 時事漫画あるいは新聞小説の挿絵などを担当する面々であった。⁽¹⁰⁾ したがって, すんなりと情景を描くという手合いのものばかりではなく, 服部亮秀の「震災絵巻」では, 「神經過敏, あやしき者は犬一匹」, あるいは小川治平「震災最中に出来たぶるぶる内閣」など風刺の効いたものが何点か挿入されている。ここで, 注目しておきたいのは, ここでも震災漫画 1 組の絵葉書引き換え券が付けられている点である。

池田遙邨年譜によれば, 震災の東京を先輩の鹿子木と 1 ヶ月間写生した成果を翌年の 1924 年 4 月姫路・総社公德殿と城山興雲閣において「震災スケッチ」展として開催している。⁽¹¹⁾

その折のものと思われる絵葉書が前掲前田興氏の論稿に掲載されている。⁽¹²⁾ 震災の写真絵葉書が大量に出回ったことはすでによく知られた事実であるが, 絵葉書は博覧会などのイベントでは必ず制作され, 大量に流通していた。イベントに限らず, 作品展覧会などにおいてはただ絵画を眺めるだけではなく, 観客にとっては複製とはいえず手にとって見ることができ, 我が物として掌中に納めることのできる媒体としての絵葉書の役割について, “観衆” という語を使いながら新しい視点からの意義が指摘されてもいる。⁽¹³⁾ 大量生産がまさに大正期の大衆文化を創りだして行く時期であり, 震災のイメージが広く社会化されている機会は, 写真絵葉書に限らず, こうした展覧会, 画集なども担っていたのである。

なお, 今回は対象とすることは出来なかった作品も多数残されている。⁽¹⁴⁾

震災の前・後として文化のひとつの画期であったことは従来から指摘されながら, 震災文化そのものが具体的なレベルで取り上げられることが少なかったように思われる。課題はまだまだ山積しているのである。

表1 「関東大震災画帖」画像一覧 立命館大学歴史都市防災研究センター所蔵

No	校番	画像タイトル	絵師	画題名	画中釈文
0		関東大震災画帖 東京十画伯実写 金尾文淵堂発兌	表紙画 (カラー)		
0		関東大震災画帖 東京十画伯実写 金尾文淵堂発兌	表紙画 (中表紙)		
		詔書			
1		皇室	丹羽禮介	皇后陛下罹災傷病者を親しく御慰問遊ばさる	畏くも、幼きものの手を親しく執らせ給ひしと聞く。
2		皇室	丹羽禮介	摂政宮殿下災害地御巡視	或日をしのびまつりて。
3		皇室	丹羽禮介	良子女王殿下罹災民に衣服を恵まる	伝え聞くまを。
4		皇室・仲見世	丹羽禮介	浅草中見世跡にて	観音様は矢つ賑り人間を守るべく残らせられた。
5	1	吉原・弁天池	丹羽禮介	吉原遊郭	哀れなる女の群！ それは最後まで苦忍と惨虐、そのものであらねばならなかつた。
5	2	浅草	丹羽禮介	浅草公園にて	その日の後。
6	1	国技館	丹羽禮介	本所被服廠附近より国技館及両国駅跡を望む	残るもの。
6	2	深川・生活	丹羽禮介	深川猿江町方面にて	生きるといふことは遂にかかかものであるのか？
7	1	上野・避難者	丹羽禮介	途上所見	倒壊された地上をゆく人の子の姿、それは厳粛なものではあるが寂しく傷ましいものであつた。
7	2	九段・生活	丹羽禮介	九段にて	護国の神も再び人の世に哭したことであらう。
8	1	神田・生活	丹羽禮介	風呂場を掘出して行水	希求する力。
8	2	帝大	丹羽禮介	帝国大学校内にて	文教の最高を誇つたその建物も今は空しい。
9	1	錦島邸	丹羽禮介	赤坂義橋にて	残るもの。
9	2	砲兵工廠	丹羽禮介	飯田町駅跡より砲兵工廠を望む	雲のみ動く。
10	1	避難者	丹羽禮介	俄雨	何処までつらい自然の暴威であらう。
10	2	日本橋	丹羽禮介	猛火に包まれた日本橋大通	昨日まで繁華を誇つた市に、かうしたことを誰が考へ及ぼさう。人の世に生きる人の子の弱小なる姿よ。
11	1	被服廠	丹羽禮介	本所被服廠	やつと持出した自分達の携帯物から火を導かうとは誰一人知らなかつただらうに。
	2	避難者	丹羽禮介	避難小屋の暴風雨	何処まで？ そして果ては？
12	1	バラック	丹羽禮介	急造の飲食店	白米、それは何よりもありがたいものであつた。
	2	救護	丹羽禮介	救護団	すべては涙であつた。
13	1	三越	丹羽禮介	日本橋より外郎の三越を望む	文明とは果して何であつたらう。
	2	避難者	丹羽禮介	東京駅頭の避難民	破壊されたる地と破壊されない地、その間を、人間は動いた。
14	1	浅草	幡恒春	上野より蔵前を望む	此の二葉は、スケッチ中、〇〇と見誤られて幾百の群集及〇〇に取巻かれて、〇〇や武器によつて打ちのめされ流血の中に氣を失ひたる幡恒春氏の死を賭けての快作である。
	2	浅草	幡恒春	九月四日午後二時上野より浅草を望む	その遭難に遭ひたる氏は前夜はかくして自警団の一人として働いたものである。
	3	夜警	幡恒春	日暮里の避難兼見張所にて	かうした不自由の中にも……。
15	1	日比谷・生活	赤城泰舒	緑陰の床座日比谷所見	平素は許されないことも許される日がある。其の時が本当の人間生活であらうか？
	2	バラック	赤城泰舒	宮城前避難天幕	昨日までは碧をたたえた聖域も、かうして、殆ど原人に近い蒼生を以つて満された。
16		生活	中澤弘光	お濠の行水	
17	1	帝国ホテル	水島爾保布	日比谷公園前所見 帝国ホテルから逃れた外人	かうした中にも外人は一人一人婦人を抱えて居た。

No	枝番		画像タイトル	絵師	画題名	画中釈文
2	雲	修状	表現派その儘	水島爾保布	表現派その儘	その日、その時
18	ニコロライ堂	倒壊	哀れ鐘も空しきニコロライ堂	丹羽禮介	ニコロライ会堂	鐘はならぬ！
2	築地	倒壊	築地水交社付近	丹羽禮介	築地水交社附近	金にあかして建てたものも、崩する時、無であつた。？
19	歌舞伎座	倒壊	開場式も目前に迫りし歌舞伎座の焼跡	丹羽禮介	歌舞伎座	跡。
2	歌壇	倒壊	日本一の大通りも今は………の銀座	丹羽禮介	歌壇にて	花の都のまん中と、誰が今考へ得やう。
20	人探・生活	避難者	※親は子を子は親を連日尋ね歩く人探し	丹羽禮介	人探し	あてどもなく！
2	馬車・生活	避難者	※肥へ車に人を乗せて俄作りの馬車	丹羽禮介	銀座通り所見	人間はすべて或何物かの守護を要する。
21	避難者	避難者	上野公園清水堂付近の避難民	丹羽禮介	上野清水堂	仏は何時の日も人間を護らせ給ふた。
2	廢墟	避難者	羅馬の廢墟の如き築地	丹羽禮介	築地居留地にて	西洋的な廢滅の跡。
22	工兵	救助	破壊されたる交通機関中に電信隊の活動	丹羽禮介	電信隊の活躍	戦時以上の苦闘である。
2	自警団	避難者	※戒厳令下の自警団	丹羽禮介	自警団	時の生んだ力。
23	横浜駅	倒壊	全市全滅の横浜駅前	加藤義助	横浜全焼之図	大を誇つた横浜の地上のありとあらゆるものは、かうして失はれて行つた。
2	津波	修状	五十尺の海嘯熱海を襲ふ	丹羽禮介	熱海の大海嘯	自然の魔力はかくしてすべてを失ひ尽さうとした。
24	生活	避難者	小田原御用邸御堀端	加藤義助	小田原御用邸御堀端にて	生きんとするもの。
2	修状	倒壊	箱根宮の下	加藤義助	宮の下の景	自然に帰れとてか？
25	八幡宮	倒壊	歴史上の古跡も倒壊した鎌倉八幡宮	加藤義助	鎌倉八幡宮	歴史を飾るものは、更に破壊の歴史をも飾つた。
2	大仏	倒壊	台座の目前に目入込みたる鎌倉大仏	加藤義助	鎌倉大仏殿	御尊体は幸ふかう。
26	倒壊	倒壊	房州那古観音堂	赤塚忠一	那古、観音の堂	仏は遂に小鳩が自分にとつては一番身近いものであつたことを知つた。
2	倒壊	倒壊	同 境内の小屋	赤塚忠一	那古観音境内の小屋	それは凡て恐ろしい破壊の普及であつた。が、信仰は壊れなかつたと見える。
3	倒壊	倒壊	同 那古の町	赤塚忠一	那古ノ町	求むる力。
27	倒壊	倒壊	激震の房州北条町所見	赤塚忠一	北条町	自然の力に依つて亡びゆくものの前には、科学の力も、人間の力も極めて弱小であつた。
2	道路亀裂	倒壊	同 其二	赤塚忠一	北条町にて	地は裂けた。だが地に棲むものは何処までも地の執着を失はない。
3	倒壊	倒壊	同 北條警察署	赤塚忠一	北條警察署	凡てのものは亡びた。失はれた。白い姿は何を思ひ、何をしようとするのであらう。
28	地変	倒壊	鷹島沖の島を望む………館山海岸	赤塚忠一	高島沖の島を望む館山海岸	すべてのものは静寂に帰つた。忽ち陸地に続いた鷹島。
2	街道崩壊	倒壊	岩井付近の県道	赤塚忠一	岩井附近の県道	逃げたい。！ ただにげたい。
29	群集	避難者	房州館山栈橋の群衆	赤塚忠一	館山栈橋	陸をのがれて海へ！
2	倒壊	倒壊	館山町所見	赤塚忠一	館山町所見	地の一角
30	警護	救助	中央線余瀨飯駅に兵士の眼番	丹羽禮介	中央線余瀨飯駅	軍隊の力に依つてはじめて群衆の殺戮は整理された。
2	街道崩壊	倒壊	同 余瀨上の原間徒歩連絡の図	丹羽禮介	中央線余瀨上の原間徒歩連絡の図	追はれ逃げてゆく人間、その中には前途には何の求むるものもなかつた人もあらうに。
31	パノラマ図		東京全市の火の海	丹羽禮介	[無題]	書家の幻想二つ 一、欧風化した都市の滅亡。
2	パノラマ図		帝都震災の刹那	清水吉臣	帝都震災乃刹那	二、和風化した都市の滅亡。
32	パノラマ図		横浜震災大火パノラマ地図	清水吉康	横浜震災大火パノラマ地図	焼土と化した横浜市
2	パノラマ図		東京近県震災地略図	清水吉康	東京近県震災地略図	厄主とその附近。
33	パノラマ図		東京大震災火災パノラマ地図	清水吉康	東京大震災火災パノラマ地図	残る東京と、失はれたる東京。

装丁（中澤弘光）、解説（薄田清）。

奥付 発売元：金屋文淵堂、大阪出張所 大阪市外天下茶屋板橋筋616：発行日：大正12年10月21日印刷、25日發行

編集兼発行者：金屋種次郎（東京市麹町永田町2丁目30番地、印刷者：伊藤正三郎（京都市新町通竹屋町南入才天町301）、印刷所：便利堂 中村弥左衛門（京都市新町通竹屋町南入才天町301）

※印：文中に画像掲載

表2 「大正震災木版畫集」 一覧表 立命館大学歴史都市防災研究センター所蔵

冊数	枝番	分類	画名・題名	画中題名・日付・署名	著者名・ 絵師	彫師	摺師	画中文	出版年・ 作成年	注記・その他	大きさ	縦×横
	0	封筒										
0	1		「大正震災木版畫集」開版 裏告							説明書き及び申込書	1枚 19.7 cm×54.3 cm	
1	1	避難者	臨時ブラック (本所相生町)	大正十二年九月四日洗鱗寫生⑩	桐谷洗鱗	長島鬼一	田村鐵之助	本所相生町二丁目 十七吉村米三、 尋々人吉村ミツ七才	1923.9.4	裏に貼紙有	36.7 cm×27.2 cm	
1	2	避難者	※宮城前天幕村	宮城前天幕村大正十三年一月小虎	川崎小虎	長島鬼一	田村鐵之助		1924.1	裏に貼紙有	27.0 cm×36.0 cm	
1	3	倒壊	炎上 (本所國技館)	国技館炎上 笛畝画 ⑩	西澤笛畝	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	27.0 cm×36.0 cm	
2	1	避難者	※運送馬車 (京橋通)	長秋	磯田長秋	長島鬼一	田村鐵之助	上野品川間五十 錢		裏に貼紙有	27.0 cm×37.0 cm	
2	2	倒壊	湖南六題 (鎌倉長谷)	大正十二年癸東大震災伝 (カ) 鎌倉 長谷所見 觀潮写	織田觀潮	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	36.3 cm×27.0 cm	
2	3	倒壊	※夕陽に映ゆる女神像 (神 田仏英女学校跡)	夕陽に映ゆる Jeanne d'Arc 像 大 正十二年九月亨 彩天⑩	田村彩天	長島鬼一	田村鐵之助		1923.9	裏に貼紙有	37.3 cm×27.0 cm	
3	1	倒壊	震後のニコライ堂 (神田駿河臺)	震後のニコライ堂 笛畝 ⑩	西澤笛畝	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有, 裏告 (0-1) 中の題は「澄め る夜 (神田ニコライ 堂)」	36.2 cm×27.0 cm	
3	2	倒壊	待乳山 (浅草今戸)	待乳山 大正十二年九月 小虎	川崎小虎	長島鬼一	田村鐵之助		1923.9	裏に貼紙有	26.0 cm×27.2 cm	
3	3	避難者	※西郷の銅像 (上野公園)	大正十二年九月六日洗鱗寫生⑩	桐谷洗鱗	長島鬼一	田村鐵之助		1923.9.6	裏に貼紙有	37.5 cm×27.0 cm	
4	1	倒壊	橋の袂 (神田橋)	長秋	磯田長秋	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	37.5 cm×27.0 cm	
4	2	倒壊	湖南六題 (藤澤町)	東海道藤澤町惨状 大正十二年九月 一日夜 觀潮写	織田觀潮	長島鬼一	田村鐵之助		1923.9.10	裏に貼紙有	36.5 cm×27.1 cm	
4	3	倒壊	本郷座の焼跡	本郷座の焼跡 大正十二年九月 彩 天⑩	田村彩天	長島鬼一	田村鐵之助		1923.9	裏に貼紙有, 裏告 (0-1) 中の題は「焼尽 されたる歓楽場 (本郷 座)」	27.0 cm×36.0 cm	
5	1	倒壊	※黄昏るゝ頃 (日本橋)	黄昏の日本橋 笛畝画	西澤笛畝	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	36.0 cm×27.0 cm	
5	2	避難者	救護所 (深川)	洗鱗寫生⑩	桐谷洗鱗	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	36.0 cm×27.0 cm	
5	3	倒壊	愛宕山 (芝)	大正十二年九月二十日 愛宕山にて 長秋⑩	磯田長秋	長島鬼一	田村鐵之助		1923.9.20	裏に貼紙有	27.2 cm×36.2 cm	
6	1	倒壊	湖南六題 (片瀬川)	古台 (カ) 片瀬川附近 大正十二年 九月癸東 大震災後所見 觀潮写	織田觀潮	長島鬼一	田村鐵之助		1923.9	裏に貼紙有	27.0 cm×36.7 cm	
6	2	倒壊	雨の天幕病院 (築地聖路加病院)	雨の天幕病院 彩天画⑩ 1923.Oct	田村彩天	長島鬼一	田村鐵之助		1923.10	裏に貼紙有	36.7 cm×27.2 cm	
6	3	倒壊	神田明神焼跡 (神田)	神田明神焼跡小虎写	川崎小虎	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	27.3 cm×37.0 cm	
7	1	倒壊	吉原大門 (浅草)	大正十二年九月六日洗鱗寫生⑩	桐谷洗鱗	長島鬼一	田村鐵之助	秋信光通 西行燈影	1923.9.6	裏に貼紙有	36.3 cm×27.2 cm	

7	2	倒壊	大震災後の和田倉門 (丸ノ内)	大震災後の和田倉門 小虎寫	川崎小虎	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	27.7 cm × 37.0 cm
7	3	倒壊	震火災後の三越 (日本橋)	震火災後の三越 笛畝画	西澤笛畝	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有, 裏告 (0-1) 中の題は「榮華 の跡 (三越呉服店)」	36.0 cm × 27.2 cm
8	1	避難者	野外学校 (相州平塚)	野外学校 彩天画 [㊞] 大正十二年九月 月 平塚所見	田村彩天	長島鬼一	田村鐵之助	1923.9		裏に貼紙有	27.0 cm × 36.2 cm
8	2	倒壊	湖南六題 (保土ヶ谷)	東海道保土ヶ谷陵道前山崩 大正十二年九月一日突東大震災后 遭難之 印象 觀潮写	織田觀潮	長島鬼一	田村鐵之助	1923.9.1		裏に貼紙有	36.2 cm × 27.0 cm
8	3	倒壊	路上の残骸 (浅草)	長秋 [㊞]	磯田長秋	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	36.3 cm × 27.0 cm
9	1	倒壊	大震災後の被服廠跡と安田 邸 (本所)	大震災後の被服廠跡と安田邸 小虎 写	川崎小虎	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	26.9 cm × 36.2 cm
9	2	倒壊	焼残りたる浅草觀音堂 (浅草区)	焼残りたる浅草觀音堂 笛畝 [㊞]	西澤笛畝	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有, 裏告 (0-1) 中の題は「靈驗 の御堂 (浅草觀音堂)」	27.0 cm × 36.2 cm
9	3	避難者	避難民の混雑 (上野広小 路)	大正十二年九月 洗鱗 [㊞]	桐谷洗鱗	長島鬼一	田村鐵之助	1923.9		裏に貼紙有	27.0 cm × 36.2 cm
10	1		湖南六題 (横浜駅)	横浜桜木町駅 觀潮写	織田觀潮	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	27.2 cm × 36.2 cm
10	2	避難者	秋晴れのバラック村 (日比谷公園)	秋晴れのバラック村 大正十二年十月 月 日比谷所見 彩天 [㊞]	田村彩天	長島鬼一	田村鐵之助	1923.10		裏に貼紙有	27.0 cm × 36.2 cm
10	3	避難者	銀座裏 (京橋尾張町)	長秋	磯田長秋	長島鬼一	田村鐵之助			裏に貼紙有	27.2 cm × 36.2 cm
		欠	木場 (深川)		磯田長秋						
		欠	湘南六景 (小田原)		織田觀潮						
		欠	野毛の山から (横浜)		田村彩天						
		欠	親子離散 (千葉八幡宿)		西澤笛畝						
		欠	芝浦 (芝)		川崎小虎						
		欠	施米 (浅草本願寺)		桐谷洗鱗						

※印：文中に画像掲載

注

- (1) 「近代日本画における風俗画」展（京都市博物館，1984 年）；震災七十周年「関東大震災と横浜」展（於横浜開港資料館 1993 年）牛田鶏村「震災画集」，服部亮英「関東大震災絵巻」などが公開展示；「絵画に見る関東大震災」展（於すみだリバーサイドホールギャラリー，1995 年）池田遙邨，鹿子木孟郎など 30 余名の作家の描いた絵画，版画，スケッチなど展示；以上の情報は新井勝紘「少年が見た朝鮮人洲遺跡——『描かれた朝鮮人虐殺』序論——」（『歴史科学と教育』16 号，1997 年）に拠る。他に，萱原白洞作「関東大震災絵巻」展示（大阪人権博物館，1997 年）；池田遙邨 関東大震災スケッチ展——新発見の作品を中心に——（有楽町朝日ギャラリー，1998 年）。
- (2) 仲間恵子「萱原白洞『関東大震災絵巻』に描かれた朝鮮人虐殺——震災下の民衆意識を探る——」（『リパティ』17 号，1997 年）；同氏「描かれた朝鮮人虐殺と作者・萱原白洞——『関東大震災絵巻』からみえてきたこと」（『大阪人権博物館紀要』創刊号，1997 年）
- (3) 注 2 参照
- (4) 「震災絵巻・朝鮮人虐殺シーンを描いた画家・萱原白洞」（香川県高等学校教育研究会同和教育部会『高同研』24 号，2001 年）
- (5) 前田興「池田遙邨と関東大震災」『池田遙邨 関東大震災スケッチ集——新発見の作品を中心に——』朝日新聞社，於有楽町朝日ギャラリー展示図録，1998 年；前田興「鹿子木孟郎から見た関東大震災」『大正イマジュリー』4 号，2008 年
- (6) 『池田遙邨 資料集』倉敷市立美術館，2004 年
- (7) 同上，90～91 頁
- (8) 高尾憲一カメラマン「震災特集号」（『婦女界』大正 12 年 10 月号，9～16 頁）
- (9) 前田興，1998 年
- (10) 和田博文編『モダン都市文化 関東大震災』（ゆまに書房，2007 年）所収「震災画譜『画家の眼』」（黎明社，1923 年 12 月 25 日）に登場する漫画作家と殆ど同じ作家連である。
- (11) 倉敷市立美術館編『池田遙邨 資料集』161 頁，（2004 年）
- (12) 注 5 前田興論文参照
- (13) 五十殿利治『観衆の成立—美術展・美術雑誌・美術史』東京大学出版会，2008 年
- (14) 新井勝紘「『描かれた朝鮮人虐殺』論 その二——関東大震災 80 年をむかえて——」（『隣人』17 号，2003 年）

朝鮮人虐殺問題から震災絵画の分析をされてきた新井勝紘氏には「ねじ釘の画家」柳瀬正夢の震災スケッチブック，日本画家豎山南風の震災絵巻を論じた論稿がある。また，小学校の生徒たちに描かせた震災体験画についても，新井氏による前掲論文（注 1 参照）において，慰霊堂保管資料のなかの本横小学校（本所区横川町所在，東京大空襲で再び焼失，廃校）の高田力蔵という若い絵の教師に指導されて描いた 146 枚の学童の震災画の詳細な分析が試みられている。そこでは，小学校低学年から高学年になるに従い，2 色のコントラストの強い不気味さも漂わせる色使いから徐々に冷静でリアルな描写へ向かうことが指摘され，先に言及した時間の経過による画題対象の内省化と符号するような傾向も導き出されている。さらに，そのなかでも千葉県東葛飾郡中山村若宮地先での朝鮮人虐殺に関連するとして新井氏が注目する 10 歳の山崎少年の絵画についての詳細な分析が紹介され，この「中山」と記された地点が朝鮮人暴行の流言の全国流布に関与したとされる船橋送信所の近くであったことを論証された。

慰霊堂保管資料のなかには本横小学校に限らず，多くの小学校児童の作文，絵画が残されており，震災後の小学校教育では深刻なトラウマとなる子供の震災体験をどのように癒そうとしたのかという観点から見直す必要のあるテーマと考え，こうした問題も踏まえ，震災絵画についての更なる考察は後日を期すことにする。

付記 作家の生・没年などは『美術家人名辞典』（日外アソシエーツ），『絵本・挿絵大辞典』（大空社）米村み

ゆき編『モダン都市文化 漫画』（ゆまに書房，2008 年），前掲和田博文編『モダン都市文化 関東大震災』などに拠った。

謝辞 本稿を成すにあたり，萱原家の方々，倉敷市立美術館，京都国立近代美術館の学芸員各位には，原画を熟覧させていただくための労をとっていただき，貴重な絵画の画像フィルムをご提供いただいた。また大阪人権博物館，立命館大学歴史都市防災研究センターからは画像の電子データの使用をご快諾いただいた。心から感謝の意を表したい。